

背景

- ・先端的かつ重要な政策課題に係る調査研究において、研究者間の国際交流の機会、人と人のつながりは重要であり、このような交流を深めていくことは、国土交通政策研究所（以下「国政研」という。）のプレゼンスの向上に有効。
- ・国政研では、その一環として、2025年3月21日に韓国・ソウルにて、内山前副所長と自動運転技術を中心とした、新しいモビリティに関するイノベーションに対する政府の支援策と効果について専門的な知見を有する韓国科学技術企画評価院（以下「KISTEP」という。）のキ・ジェフン研究員（以下「キ研究員」という。）との意見交換を実施。

KISTEPとの意見交換の概要

KISTEPの業務概要

- ①自律走行車のような基礎的技術がどのように発展してどのように社会に影響を及ぼすか等について予測。
- ②科学技術革新政策を支援（代表的な政策が科学技術基本計画）。
- ③各省庁の研究の重複を避け、また、似た研究を各省庁間で協力して実施できるよう、科学技術情報通信部による調整を支援。
- ④研究開発に係る妥当性評価を行い、大規模な予算が投じられる研究開発を推進するか否かを決定。

キ研究員の直近の研究課題

- ・社会問題を解決していく上で、科学技術がその役割を果たさなければならないということが最近10年間のトレンドであり、社会問題解決目的の科学技術政策と研究開発の結果を評価するための方法論を開発中。

KISTEPの国際機関における活動

- ・OECDの科学技術指標に係る各国専門家の作業部会へのデータ提供等韓国の知見を積極的に国際的に共有。

韓国の公共部門におけるジェンダー主流化に係る取組

- ・女性専用の駐車場のほか、地下鉄や都市バスの妊婦専用座席を設置し、専用座席に対する市民の認識も向上。
- ・科学技術政策の分野では、第5次女性科学技術人育成支援基本計画（計画期間2024年～2028年）を策定。

おわりに

- ・今般の意見交換を通じて、調査研究における国際交流を深めることができた。
- ・キ研究員に感謝申し上げるとともに、今後とも、このような機会を通じて、国政研のプレゼンスの向上に取り組んでいきたい。